

## レジリアンス・プロジェクト平成 21 年度研究計画 (Research Plan for FY2009)

1. 氏名/所属: 宮崎 英寿 総合地球環境学研究所
2. 具体的な研究課題(今年度)
  - 1) 異なる生態環境が人間活動へ及ぼす影響の評価
  - 2) 土地利用戦略の実態把握
  - 3) 生業活動の実態把握
3. 具体的な研究内容(今年度)
  - 1) 異なる生態環境が及ぼす人間活動への影響評価  
平成 19 年度より開始しているトムロコシの栽培試験を継続し、土壌の理化学性分析、土壌水分測定結果とあわせて解析する
  - 2) 土地利用戦略の解明  
GPS を用いた雨季畑と乾季畑の測定をおこなう。雨季・乾季それぞれにおいて、耕作地選定に対する地形条件の影響、干ばつあるいは洪水時の耕作地に対する対処法を知るために、a)地形条件による栽培作物や栽培方法の違い、b)品種の選抜方法についての聞き取り調査を全世帯に対しておこなう。
  - 3) 生業活動の実態把握  
農業・非農業活動を含むすべての生業について聞き取り調査をおこなう。  
(例えば、現金収入手段など)
4. 今年度末までの達成予定(上記の課題毎に、何をどの程度明らかにできるか)
  - 1)異なる生態環境、特に異なる地形要因がトムロコシ生産に及ぼす影響を年次変動も考慮して明らかにする。
  - 2)異なる生態環境下で、農民の土地利用戦略がどのように異なるかを経時的に明らかにする。
  - 3)景観観察から得られた考察を裏付けるような聞き取り調査から調査村での農民の生業をより詳しく把握する。
5. 今年度現地調査予定  
時期:乾季終盤(8月末~10月)  
目的:
  - ・乾季終盤—乾季畑の計測(GPSを用いて)、トムロコシ栽培試験の準備(播種準備)  
(播種は現地アシスタントに依頼。)内容/準備状況:

継続しておこなっている調査が主なので特に準備することはないが、聞き取りに用いる調査表等のブラッシュアップが必要である。
6. 次年度以降の計画予定概要  
(平成 22、23 年度)
  - ・継続して栽培試験をおこなうことから、異なる生態環境が及ぼす人間活動への影響を把握する。
  - ・GPS を用いた耕作地の測定から、農民の土地利用戦略とレジリアンスの関係を明らかにする。
  - ・旧村と新村の世帯間で、どのように圃場の立地条件・栽培作物が違うのか、土地所有面積が異なるのかを GPS データと空中写真と衛星写真から作成した地形図から明らかにする。
  - ・レジリアンスを考える上で重要となる生業複合について、農民の土地利用戦略を生業(例えば、現金収入)に関する聞き取り調査の結果や、他研究者が既に行った世帯情報データ(世帯構成など)をもちいて明らかにする。
7. 成果発表計画  
発表予定学術誌(学術誌名) 未定

発表予定学会(学会名・時期) 日本国際地域開発学会 秋季  
ワークショップ等 レジリアンスプロジェクト ルサカWS

8. その他(何かあれば)